

の後、堀内清治熊本工大工学部長の乾杯の音頭で始められた。300名の参加者を迎え、各地から参集した会員間で歓談が午後8時すぎまでくりひろげられ、実行副委員長・新日本製鉄(株)第三技術研究所長 磯平一郎氏の万歳三唱並びに閉会の辞で散会した。

ジュニアパーティー

10月10日午後5時30分より熊本工大レストラン志門において開催された。各地より参加した180名の若手技術者、研究者を中心になごやかに懇談がなされた。

見学会

1) 婦人見学会 (10月9日)

熊本の歴史と文学めぐり(熊本城、伝統工芸館、神水苑、水前寺公園、立田自然公園、漱石記念館)が行われた。

2) 工場見学会 (10月12日)

井関農機(株)を見学後、阿蘇山火口見学が行われた。

コ ラ ム

立体視をどうぞ

我々は日常何気なくものを見ているが、対象の立体感、遠近感の認識は双眼に依存することは誰もが知っている。

動物の生存競争の過程での優生学的進化の産物なのか、はたまた天の配剤なのかは知らぬが、立体を認識する能力は貴重である。

ところが人間はその文化を伝達、保存する手段として古来主に2次元の媒体によつてきた。このような平面上に記述、描写された情報は、人間の本来具備している立体認知能力からすると、次元の欠けた不十分なものであるが、これを補う方法として、見取図、透視図、写真、ホログラフィーなど、必要に応じていくつか工夫されている。これらの一つに航空写真やステレオ図による立体視がある。

鉄鋼関連技術に限らず材料物性の研究分野では、結

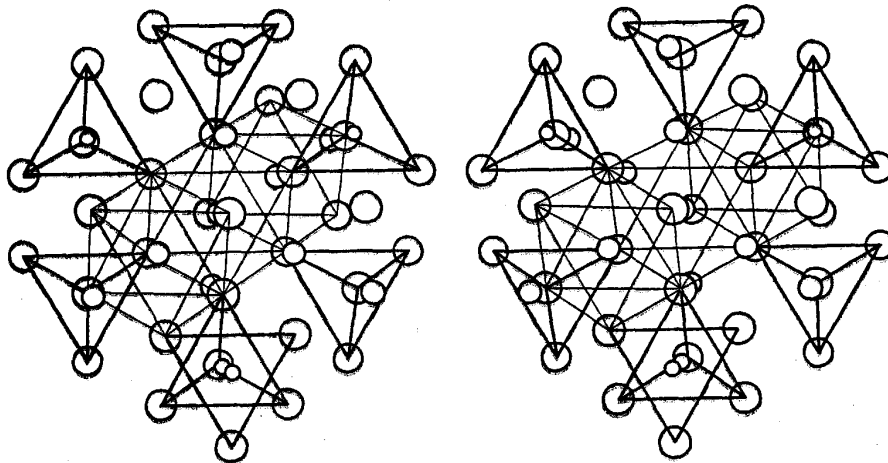
晶構造に関する知見は重要であるが、複雑な原子配列の立体的イメージを把握するのに、立体視は簡便で理解しやすく、何よりも素朴な感動を呼ぶことができる。

立体視を行うには若干の慣れを要するが、肝要なのは見ようとする意志であつて、そう困難なことではない。

下図に一例を掲げるが、左右2枚の図をそれぞれ左眼と右眼で等しく分担して、紙面のはるか遠方に視線を送りつつ、2枚の図が重なるようにすると、やがて2枚の図は3枚に見え中央の像が立体像を現すはずである。

我々の双眼も立体3次元に時間を加えて4次元を見る能力が付与されていれば、明日の経済動向も一目(二目?)で分かるというものであるが、神はそのような、おろかな人間どもの生きる意義を挫くようなことは、やはりお認めにはならなかつたようである。

(住友金属工業(株) 総合技術研究所 佐藤 駿)



(出典:岩波講座地球科学4 (松井義人, 坂野昇平編) (1982), p. 30 [岩波書店])

図 1.9 γ - Mg_2SiO_4 の Si, Mg の配位多面体を示したステレオ図 (原図は図 1.8 と同一). SiO_4 四面体は太線で示してある, MgO_6 八面体は、すべて示すと稜共有のために図がたてこみすぎるので、ここには3個だけ書き入れてある。